

府高退教通信

NO.228

発行
〒543-0021

大阪市天王寺区東高津町七一十一
府教育会館7F 大阪府高教内
大阪府立高等学校
退職教職員の手

TEL 06-6768-2106
FAX 06-6768-1675

自己責任・不寛容社会を

見つめよう

山上俊夫（北野定）



松坂慶子がマドンナの「男はつらいよ」46作「寅次郎の縁談」の解説で俵万智が歌を披露した。

「自己責任、非正規雇用、寅さんだったら 生産性 何ていうかな」

おそらく寅さんは「馬鹿にしちやいけねえよ」と腹に落ちる話をしてくれるにちがいない。

幸福度ランキング 驚愕の58位

国連が幸福度ランキングを発表した。各国民がどれくらい幸せと感じているかの調査を土台に、GDP、平均余命、寛大さ、社会的支援、自由度、

日本はダントツの38%、アメリカ28%、中国9%、イギリス・フランス・インド8%、ドイツ7%だった。アメリカの数字はトランプを生まみ出すだけあつてなるほどと思うが、日本はとにかく驚きだ。日本社会の変質を探る材料だ。

全国の文壇を受けた「人図裁判」朝日訴訟

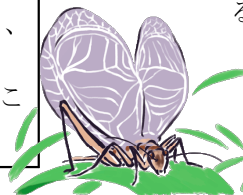
今年の退教ツアーで岡山に行った。ハンセン病資料館とともに朝日訴訟資料館がメイさんだ。結核患者の朝日茂さんが、生活保護費は生存権を規定した憲法25条に違反している裁判に訴えた。

貧しい時代ゆえの中傷もあった。だが朝日裁判は「人間裁判」として全国の労働組合・民主団体・学生自治会が団結して「国民大行進」までして支援した。世論もマスコミも暖かかった。今は、安倍・維新政治の下、生活保護バッシングは恥ずかしげもなく語られる。

自己責任イデオロギーを打ち破れ

自己責任、不寛容の風潮は、イラク戦争中の2004年、高遠さんらの人質事件への自己責任キャンペーンから始まった。これに新自由主義が結合し、努力したものが報われる社会が喧伝された。税制「改革」の結果、大企業富裕者が肥え太り、格差社会が確立した。

こんどの参院選で、大企業富裕層に課税を強化して財源を生み出す政策が太く語られた。財源論にこそ、社会の見方が現れる。ここで世論を結集することが、2004年来の自己責任イデオロギーを打ち破る道につながる。日本社会は自分を鏡に映したがる。昨今は自画像を肥大化させている。寅さんの時代とは違う変質した自画像を見つめる必要がある。



新幹事の寺西さんと永野さんから挨拶をいただきました。

寺西文夫（長野）

今年の五月の総会で新幹事になった寺西です。参議院選挙では安倍首相の街頭演説でのヤジを言ったものを強制排除する警察の対応や吉本新喜劇を利用した宣伝など目の余るものがあり、マスコミの批判の弱さにも民主主義の危機を感じました。

定年退職後、再任用も終えて今は普段は家事全般をしています。若い時から趣味の旅行は今は好きな時に行けるので、今年には二月にモルディブでサメやマンタと泳ぐシュノーケリングや体験ダイビングを楽しみ、四月にはチュニジアで古代遺跡やサハラ砂漠でラクダに乗り、六月にはJALのマイルを使って沖縄に行き戦跡やグスクを回り、ここでもシュノーケリングをし、久米島にも渡りました。

八月には夫婦で静岡で働いている息子に会うついでに、富士山を巡る旅をしました。静岡の日本平や三保松原では富士山は見えませんでした、河口湖でははっきり見えました。その後、バスで富士山五合目に行き、東京でもスカイツリーに上りましたが、残念ながら富士山は見えませんでした。

旅行の記録はインターネットの「フォートラベル」という旅行サイトで「旅四郎」という名前で写真ブログ書いてアップしています。また、上方落語に出てくる大阪市内の土地を断とあわせて歴史地理的に考えていく「上方落語の聖地を巡る」というホームページも開設しています。興味があったら覗いてみてください。

自分の好きなことや、やりたいことがいろいろあって多くの時間を使っているの、府高退教の活動にはあまり役に立たないかもしれませんが、自分のできる範囲で頑張りたいと思っていますので、よろしくお願ひします。



永野孝徳（城東工科）

今回、幹事になりました永野です。よろしくお願ひします。退職して1年半が過ぎました。退職時に比べて体調も良くなりました。平日はボランティアであまり空いた日がないので、どれだけ退教運動に協力できるか分かりませんが頑張っていきたいと思ひます。

最近会員が増えていないと聞きました。退職した友人と話をする、「退教といえば組合の偉いさんの集まりのようで敷居が高い」と言っていました。私は組合本部にいて、退教のとりのくみを見てきましたが、偉いさんの集まりでも敷居が高いと思うこともなかったです。しかし、傍目ではそう見えるのかなと思うようにもなりました。幹事としてたくさんの方が「参加したい」と思ひ企画なども提案できたと思ひますし、退教に入っていない友人に加入の呼びかけをしていきたいと思ひます。

また、府高教本部の役員が大変若返っています。これまで、組合員拡大は退職者が多かったため、増やしてもトータルとして組合員減が目立ちました。実際、専従者の数も大幅に減っています。しかし、来年から退職する組合員が減るため、増やせばそのまま実増になるそうです。府高教運動に展望が開ける感じですが。

少人数で組合本部を支えるのは大変です。退職者として実務など協力できることがあれば積極的に協力していこうと思ひます。

訃報

梅本哲朗(勝山)さん
 この四月まで退教役員だった梅本哲朗さんが七月五日呼吸器不全のためご逝去されました。六月に感染症で入院、一度は回復して退院の矢先に新たな感染症で突如意識を失い、最期は眠るような安らかさであったそうです。享年八六歳でした。

梅本さんは勝山高高校長で退職、長年にわたって副会長などの役職を歴任、元管理職としてすべての教職員に開かれた退

教運動の先頭にたつて活躍されました。とりわけ、安倍第一次内閣時の教育基本法改悪、橋下維新政治の相次ぐ教育破壊攻撃に対して教育を守るオール教職員運動の構築に牽引的役割を果たされました。上六交差点で教育基本法改悪の危険を諄々と説く梅本さんの凛とした姿は今も多くの人の心に残っています。また、囲碁高段者として退教囲碁サロン・囲碁大会の発展に貢献されました。心よりご冥福をお祈りいたします。(広瀬 晃)



女性サロンご案内(森田敏彦さんガイド)

戦争と沖縄に思いを寄せる小さな旅
 大正区で渡し船に乗って、沖縄料理を楽しもう
 10月21日(月)小雨決行
 JR環状線「大正駅」
 10時集合

大阪市内には今も8か所で市営の渡し船が運行され、市民の貴重な足となっています。そのうち7か所は大正区にあります。大正区はまた、近代の歴史のなかで多数の沖縄県民が出稼ぎなどで移住したところ。沖縄の人びとは職業や住居で差別され苦難な生活を強いられました。そのうえ、アジア・太平洋戦争末期の連合軍の空襲で大正区は大きな被害を受けました。そこで、今回、渡し船に乗って、川とともにある暮らしを体験しながら、沖縄のこと、戦争のことに思いを寄せるミニツアーを企画しました。昼は沖縄そばなどをいただきます。男性も大歓迎です。皆さんふるってご参加ください。

アメリカ、マラウイの旅 (その四)

勝間 眞(山本)

マラウイの学校を見学する。この国の教育制度は、まず8年制のプライマリスクール(小学校)があり、これを卒業すると4年制のセコンドリースクール(中学校)へ進学できる。セコンドリーは日本で言うと中学3年と高校を合わせた学校である。さらにその上に4年制の大学や専門学校がある。大学は、総合大学のマラウイ大学と教育系のムズズ大学の二つしかない、相当の難関で授業料も高く、大学進学できるのは小学生一〇〇人に一人と言われている。この国では大学生はかなりの恵まれたエリートである。

プライマリは無償の義務教育がたてまえであるが、経済的事情や家の仕事などで全員卒業できるわけではない。

私が甥は、ムセチェIIセコンドリーで理科を担当している。物理

当面の日程

- 【9月】
- 2日(月) 13:30 話を楽しむ会 茶白山画廊
- 2日(月) 14:00 シヤンソンを歌う会 ガットネロ
- 9日(月) 14:00 シヤンソンを歌う会の9月度例会は2回 ※シヤンソンを歌う会を中止
- 9日(月) 14:00 短歌を楽しむ会 ガットネロ(中止)
- 13日(金) 12:00 三〇〇〇万署名上六宣伝
- 13日(金) 14:00 第294回幹事会 705室
- 20日(金) 14:00 シヤンソンを歌う会 ガットネロ
- 25日(水) 13:00 第60回囲碁大会 705室
- 【10月】
- 11日(金) 12:00 三〇〇〇万署名上六宣伝
- 11日(金) 14:00 第295回幹事会 705室
- 21日(月) 10:00 秋の退教「女性サロン」JR大正駅集合 大正の渡し(案内は森田さん)



教室で学ぶ生徒たち

・化学・生物などを全て英語で授業する。担当している授業時数は週18時間で、英語授業の準備はとても大変で時間もかかる。現地の教員もほぼ週20時間前後の授業時数で、学校によってはそれ以上になる場合もある。

私たちはそれ以前に、マラウイ湖近くのリスンビューIIセコンドリーを見学していた。この学校にもジャイカ隊員が何名か派遣されている。この学校は約60%の大学進学率をほこる超進学校であり、授業の様子を見るだけでも生徒の高い学習意欲が十分に感じ取れる。ここで理科を教えているジャイカ隊員は週24時間の授業を担当しているという。この学校は全寮制で男子寮・女子寮があるが、男女交際は厳しく制限されている。それは男女交際の結果おこるトラブルで、もともと少ない女子生徒が修学不能に追い込まれる場合がかなりあるからである。この学校の設備はマラウイではかなりマシである。校舎は他の学校と同程度であるが、以前の府立高校のような鉄パイプ連結式の机・イスが全員分備わっていて、これは驚異的なことなのである。また図書室もあって司書の先生もいて教科書等を閲覧できる。この国では生徒全員が教科書を持っているとは限らないのである。

府高退助氏

門田向日子(布施) NO.182

